

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2010 年 9 月 24 日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) [No. 152]

JR総連は当事者にしか知り得ない革マル内部抗争の実態を自白！

本号からは「JR革マル派 43 名リスト裁判」で原告の JR 総連側が 2010 年 6 月 30 日に提出した準備書面で、JR 内革マル派と革マル派中央との対立の内容を詳しく自白している部分の検証に入っていきたい。当該の内容を以下に記載する。

5 対立・敵対の決定化 (1) 「3. 1 問題」

ア 革マル派は、1992 年 3 月 1 日に開かれた春闘討論集会で、労働組合運動に関し、「賃プロ（賃金プロレタリアート）魂注入主義」「資本との対決主義」といわれた方針——職場で資本当局と直接対決する運動で、組合運動をいかに拡げ、労働者の権利を獲得していくかというような取り組みは、改良闘争であってやってはならない、というような内容の方針——を提起し、その後、組合運動場面でそのような管理者と直接対決する行動を強要し、多くの職場などでそれまで作り上げてきた組合運動をめちゃくちゃにしてしまった。JR 内の革マル派グループは、このような方針は、分割民営化問題などに苦闘してきた JR の組合員の闘いを否定するものであって、とうてい認められないとして、革マル派中央との関係をますます疎遠にしてきた。JR の組合内の革マル派のメンバーらは、「トラジャ」のメンバーを中心に、組合の取り組みなどについて学習し、討議し方針を作り上げていった。

イ 翌年 1993 年に、革マル派内で、「3. 1 路線」が問題にされたが、その総括や組合運動の建て直しなどをめぐって、組織内は大混乱をした。とりわけ、全軍労をはじめとする沖縄の労働者組織と革マル派中央は激しく対立した。JR 内の労働者は、動労時代から沖縄の労働者と親密な関係にあり、沖縄の労働者を支援した。これに革マル派中央は怒り、JR 内の革マル派グループと革マル派中央は激しく対立した。「トラジャ」のメンバーは、革マル派中央との会議をボイコットした。これに対し、革マル派中央は、1994 年 7 月、「トラジャ」のメンバーの浅野孝を拉致し監禁した。JR 内のメンバーは、これを許すことができない蛮行であるとして、それまで形式的に続けてきたカンパの納入や機関紙の購入を取りやめるとともに、拉致監禁されたトラジャのメンバーを解放するよう迫った（当時革マル派の弾圧事件の弁護を行っていた弁護士に間に入ってもらって、交渉の場の設定を頼んだ。なお、弁護士が交渉の場に立ち会ったことはない。）。革マル派中央は、これに応じなかったばかりか、他の「トラジャ」メンバーをも拉致し、監禁をした。

(2) ア 革マル派中央は、拉致し監禁をした「トラジャ」メンバーを参加させて JR の組合内の会議などを再開させることをはかり、JR の組合内の「革マル派」のメンバーは、「トラジャ」のメンバーの参加のもとに、「革マル派」の会議を持った。しかし会議では、対立ばかりが繰り返された。JR の組合内の「革マル派」のメンバーは、機関紙の購読を拒否し、カンパを革マル派中央に納入することを拒否した。

イ 革マル派中央は、会議が終わると、再び「トラジャ」メンバーを連れ去り、監禁を続けた。

JR 内革マル派グループは表の組合の顔とは別に内部抗争を展開！

読んでの通り、革マル派の活動に深く関与していた当事者にしか絶対に知り得ない驚くべき内部情報である。JR 総連や東労組をはじめとする傘下の組合では、1992 年以降、労働組合としての表の顔とは別に、水面下では、JR 内の革マル派のグループが革マル派の内部抗争に明け暮れていたということだ。この内容は、本情報で繰り返し紹介してきた、警察が作成したと確実視される「綾瀬アジト」の押収資料による解析資料や、宗形明氏の著書の記載とも符合する。次号でさらに詳しく検証を進めたい。